

# 令和元年度 県立学校における「地域と共にある学校づくり」 研修会実施報告書

- 1 日時 令和元年12月18日(水) 13:30~16:30
- 2 会場 県立教育研究所 中講座室1
- 3 参加者 県立学校教職員 計 52名
- 4 内容 13:30~13:35 開会  
13:35~13:45 説明「コミュニティ・スクールについて」  
13:45~15:15 講演「県立学校における『コミュニティ・スクールづくり』」  
文部科学省CSマイスター 増渕 広美  
15:25~16:25 グループワーク  
16:25~16:30 閉会

## 5 講演概要

- ・増渕先生が校長として勤めた神奈川県立市ヶ尾高等学校で、先行的に学校運営協議会を立ち上げ、コミュニティ・スクールを導入した実践例を中心に講演いただいた。その中で高校生を主体とした「まちの未来づくりプロジェクト」や、区役所やNPO法人、近隣の中学校等と一体となり、地域の魅力アップに向けた活動の取組を具体的に説明していただいた。
- ・「チーム学校」として、小・中学校のような「地域コミュニティ」と、学校が何を指すかという「テーマ型コミュニティ」の2つのバランスを考えて学校運営協議会を立ち上げ、委員の方いろいろな視点をもって加わることで、機動力のある効果的な学校運営を目指したという。
- ・コミュニティ・スクール推進のポイントとして3点、①人材（学校運営協議会委員構成、教員の意識改革、保護者の力、地域のキーパーソン）、②校内（校内組織体制、取組の位置づけ、生徒の変容の把握）、③校外（ネットワーク、開かれた学校）を示していただいた。
- ・コミュニティ・スクールだからできたこととして、学校経営力のアップと関係機関とのつながりが深まったことがある。学校（子ども）にとって地域が身近な存在になり、また、学校の活動を地域に対して情報発信することで、保護者も、地域が子どもたちを育ててくれるという感謝の気持ちをもつようになった。
- ・コミュニティ・スクール導入後の3つの成果は、①学校経営力のアップ、②多世代交流をととした地域課題に関する教育活動の実現、③「総合的な探求の時間」のプログラムの充実であった。
- ・学校運営協議会は、学校にとって心強いパートナーであり、コミュニティ・スクールのもつ可能性は無限大であると最後に参加者にメッセージをいただいた。



## 6 グループワーク

- ・各学校で取り組んでいる地域との協働について、「活動概要」、「取組のねらい」、「協働相手」などワークシートに記入し、グループ内で情報を共有した。
- ・他校の取組の内容を聞き、コミュニティ・スクールを導入していく上で、「感銘を受けた点」、「まねをしたい点」、「改善点」などを付箋にメモをしてことばを添えて発表者に渡すことで、同じような悩みを参加者で共有することができた。
- ・最後に、班の代表者がグループワークの中で、CS導入にあたって見えてきたポイントや課題など最も気になることをキーワードにして全体で発表した。



## 7 感想

- ・校長のビジョンにより、様々な可能性が広がるがよく理解できた。
- ・非常にわかりやすいお話でした。事例のクオリティーが高く、学ぶべき点が多かった。
- ・とても良い目標になります。CSの推進に向けて具体的な問題、解決方法も見えた。
- ・「コミュニティ・スクール推進のポイント」を具体的、実践に即して説明していただいた。委員会の立ち上げ、教職員の意識改革、そして、地域等の外部資源の活用などとても参考になった。
- ・高校の中でも、都市部にあったり、進学に重点を置く学校や普通科はCSとなじみにくいと勝手に思い込んでいたが、工夫し、視点を変えて、やる気があれば、方法は見えてくるということを実感した。
- ・とてもわかりやすい話であった。具体的な内容、参考となる組織のあり方や運営についての話があり、見通しがもてるものであった。特別支援学校として地域のつながりをどうするのかを大事にした組織づくりをしていきたいと思う。
- ・他校の取組を知り、交流することは非常に大切である。他校の実践を見て、本校を自己評価することができた。

